

小学校の特別活動および教科等でのキャリア・パスポートの活用についての一考察

板 橋 夏 樹¹

本研究では、キャリア教育の推進のために文部科学省が例示したキャリア・パスポートを用いた特別活動および教科等における活用の在り方の特質の一端を明らかにするため、「小学校キャリア教育の手引き」（文部科学省、2022）と、「キャリア教育リーフレットシリーズ特別編キャリア・パスポート特別編1〜5」（国立教育政策研究所、生徒指導・進路指導研究センター、2018・2019）、滋賀県教育委員会による「夢の手帳」を基に分析した。その結果、キャリア・パスポートを導入している場面の多くは、特別活動で新たに盛り込まれた「学級活動(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」や学校行事の事前事後指導の場面であり、教科への導入の事例は僅かであった。キャリア教育は特別活動と各教科を往還して行っていくものである。そこで、今後、このキャリア・パスポートのもつ「振り返り」の特性を生かして各教科の振り返り等の場面への導入が可能であることを明らかにした。

Keywords：小学校、キャリア・パスポート、キャリア教育、特別活動、教科

1. はじめに

近年、勤労観や職業観という枠組みを超えたキャリア教育が議論されるようになってきている。「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（中央教育審議会答申、2011年1月）では、それまでに定義されていた「4領域8能力」と呼ばれたキャリア発達に関わる諸能力から、キャリア教育で育成すべき4つの基礎的・汎用的能力として「人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力」の4つの能力が位置付けられた。その後、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（中央教育審議会答申、2016年12月）の「第1部 学習指導要領等改訂の基本的な方向性 第8章 子供一人一人の発達をどのように支援するか」では、キャリア教育について述べている。この中で、「小・中・高等学校を見通した、かつ、学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の充実を図るため、キャリア教育の中核となる特別活動について、その役割を一層明確に

する観点から、小・中・高等学校を通じて、学級活動・ホームルーム活動に一人一人のキャリア形成と実現に関する内容を位置付けるとともに、「キャリア・パスポート（仮称）」の活用を図ることを検討する。」という一文が示された。

これらの議論を踏まえ、『小学校学習指導要領』（平成29年告示）の総則には「（前略）特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」という一文が加わり、キャリア教育の充実が求められた。また、この学習指導要領の特別活動では、学級活動の内容として新たに「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」が盛り込まれた。

文部科学省はキャリア教育の充実を図るため、2019年3月に「「キャリア・パスポート」例示資料等について」を各都道府県教育委員会等に通達した。その上で、小学校・中学校・高等学校用の各学校段階の教材として「キャリア・パスポート（例示資料）」を提示しその推進を図ってきた。このキャリア・パスポートの役割は、中央教育審議会答申（2016年12月）の中で「学びの過程を記述し振り返ることができるポートフォリオとしての機能を持つ教材」と書かれている。また、「「キャ

1. 宮城学院女子大学教育学部

リア・パスポート」の様式例と指導上の留意事項」(文部科学省、2019)によれば、「キャリア・パスポート」は次のように定義される。

「キャリア・パスポート」とは、児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。

さらに、「小学校キャリア教育の手引き」(文部科学省、2022)の「第2章 キャリア教育推進のために」では、「児童の発表や話し合いの様子、学習や活動の状況などの観察による評価が考えられる。児童のレポート、ワークシート、ノート、作文、絵などの製作物による評価、児童の学習活動の過程や成果などの記録や作品を計画的に集積した「キャリア・パスポート」、評価カードなどによる児童の自己評価や相互評価を参考にすることも考えられる」として、キャリア教育を行う場合の多様な評価方法の1つとして同パスポートの活用を示している。このキャリア・パスポートを使う場合の注意点としては、児童・生徒が継続的、且つ、受動的にただ「書かされる」だけでそれきりにならないような配慮すべきである。

キャリア・パスポートについての先行研究には以下のようなものがある。

藤本(2021)は、中央教育審議会答申やOECDが提唱するラーニング・コンパスとの関係を踏まえた上で、現学習指導要領に盛り込まれたキャリア教育の導入の経緯と、キャリア・パスポートの使用の在り方について解説している。この論文で対象としたのは学級活動とホームルーム活動であり、教科への扱いについては言及していない。

松山(2022)は、2021年10月に全国各自治体でのキャリア・パスポート活用状況の調査を行い、計18の教育委員会が作成したキャリア・パスポートを分析した結果、文部科学省が例示したも

のを参考としつつも創意工夫のあるキャリア・パスポートを作成し、小学校～高等学校まで系統性を持たせていることや、記載内容を簡略化している状況、ある自治体では郷土に基づくキャリア意識の促進を図っているという特徴を見出した。キャリア・パスポートが文部科学省から例示される以前から、各教育委員会や学校単位で、キャリアノート等と称されるような様々な名称でキャリア教育のための資料が作られていた。本研究により、文部科学省が例示したものと関連付けた形で再構成したものを作成している各自治体の実態が明らかになった。

橋本(2022)は、「キャリア教育に関する総合的研究 第二次報告書」(国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター、2021)を分析対象として、小学校～高等学校におけるキャリア・パスポートを用いたキャリア教育の意義を検討した。その結果、各学校段階でのキャリア・パスポートの活用が、小学校では児童の学習意欲、中学校では生徒のキャリア発達を意識した指導、高等学校では生徒の「人間関係形成・社会形成能力」「課題対応能力」学びのレリバンス意識に影響していることを明らかにした。

文部科学省は、キャリア・パスポートの活用について、小学校から高等学校まで校種を越えた継続的な使用、特別活動の枠を越えた教科横断的な活用、各学校段階での有意義な活用を求めている。校種を越えて使用する教材はあまり前例がないものである。そのため、その運用について様々な困難が容易に想定される。しかし、松山(2022)や橋本(2022)が示すように、キャリア・パスポートの活用の工夫により、児童・生徒のキャリア形成により良いものとなるはずである。

佐野・藤井(2024)は、小学校第3学年の学級活動でキャリア・パスポートと学校行事(運動会や学習発表会)を関連させた学級活動における児童の変容を調べた結果、活動目標を設定する際の児童の行動に変化が生じたことを明らかにした。この中で「キャリア・パスポートを使った児童の回答からは、振り返りや目標を立てる際にポート

フォリオを使うよさや自分の成長を確認する機会にするなど、キャリア・パスポートの意義に触れた記述が見られた。」とあり、教師側のキャリア・パスポートの提示の機会や活用の仕方次第で児童の学校行事への意識の向上につながるものだといえる。特に授業での振り返りでの有効性に言及している点が重要な点だと考えられる。

「「キャリア・パスポート」の様式例と指導上の留意事項」(文部科学省、2019)には「各教科等と往還し」という一文があるように、キャリア・パスポートは特別活動だけでなく各教科や道徳、総合的な活動の時間と連携して活用する必要がある。キャリア・パスポートについての先行研究はいずれも特別活動での使用に限定した議論であり、特別活動と教科等との関わりに着目してはいない。そこで、本研究では、特別活動だけでなく教科等における活用という視点で、キャリア・パスポートの在り方を検討したいと考える。

2. 研究目的

本研究の目的は、特別活動および教科等を関連付けるためのキャリア・パスポートの活用の特質の一端を明らかにすることである。

3. 研究方法

本研究では、「小学校キャリア教育の手引き」(文部科学省、2022)、「キャリア教育リーフレットシリーズ特別編キャリア・パスポート特別編1～5」(国立教育政策研究所、生徒指導・進路指導研究センター、2018・2019)にあるキャリア・パスポートの活用場面、及び、滋賀県教育委員会が作成した「小学生版キャリアノート「夢の手帖」」¹⁾を分析する。

4. キャリア・パスポートの活用場面の特徴

先述のように、文部科学省は「キャリア・パスポート(例示資料)」により、各都道府県、各自治体が導入しやすいようにキャリア・パスポートのひな型を用意した。本節では、小学校段階のキャリア・パスポートを分析し、特別活動および教科

で具体的にどのように用いられているのかを明らかにするとともに課題を探る。

(1) キャリア・パスポートのひな型について

本研究では、文部科学省が示した「キャリア・パスポート(例示資料)」における小学校段階での内容を整理することにする。小学校段階を対象とする理由は、キャリア・パスポートが小学校段階を基本にして中・高等学校段階に引き継がれるものという特性上、すべての基本となる小学校段階のものを研究対象とする必要があると考えたからである。学年は、第1・3・5学年を例示している。第1学年では「〇がつきをふりかえりましょう」「1ねんかんをふりかえりましょう」、第3・5学年では「新しい学年がはじまりました」「〇がつきをふりかえりましょう」「1年間をふりかえりましょう」があり、それぞれ学習面、生活面、家庭・地域、習い事・資格、目標やその達成状況を書く欄がある。その他の例として、「5年 自然の教室(宿泊学習)がんばりカード」「〇〇(学校行事)がんばりカード(高学年)」等がある。

なみに、各自治体の多くは、この例示資料の発表前後において、松山(2022)が述べているように、それぞれキャリア教育推進に向けて同様の資料を準備している。例えば、宮城県教育委員会は、従来「みやぎの志教育」を教育指針に据えてきていたことに基づき「志シート」を使用していた。今回の学習指導要領の改訂によるキャリア・パスポートの導入に伴いこれらの融合を図り、2023年3月に「志シート」リニューアル版の配信を始めている。この資料の小学生の内容を見ると、「「〇年生になって(新しい学年になって)」」「「自分の成長(〇年生を振り返って)」」「「〇〇〇(学校行事)」(〇〇〇チャレンジシート)」」「「未来の自分(進学する自分へ)」とあり、その詳細な項目を含め、文科省のキャリア・パスポートに似たものとなっているといえる。

このように、文部科学省が例示した資料は、主に、学年はじめや終わり、学校行事の事前・事後の指導等の学級活動での活用を想定したものと

なっている。各教科においてもキャリア教育に関する内容が関連付けてられているが、キャリア・パスポートには直接的な教科との関連や活用は例示されていない。学年はじめや終わりで活用するシートの小項目に児童自身の学習面での目標や自己評価を記載する欄がある。しかし、これらのシートに児童が記入する機会は年数回のみである。このため、「キャリア・パスポート（例示資料）」は各教科での活用を想定しているとはいえない。

(2) キャリア・パスポートが活用される特別活動および教科の場面等について

小学校において、キャリア・パスポートは、特別活動はもちろんのこと、その他の場面でどのように活用される可能性があるのだろうか。本節では、「小学校キャリア教育の手引き」（文部科学省、2022）や、「キャリア教育リーフレットシリーズ 特別編キャリア・パスポート特別編1～5」（国立教育政策研究所、生徒指導・進路指導研究センター、2018・2019）等をもとに、整理した。

まず、表1は「小学校キャリア教育の手引き」（文部科学省、2022）の「第4章 各学年段階におけるキャリア教育」の低・中・高学年の各段階の頁で紹介されたキャリア・パスポートを用いた特別活動、教科の事例の文章のみを抜粋したものである。「小学校キャリア教育の手引き」には、キャリア教育に関連する各教科や特別活動、道徳の様々な活用事例が紹介されている。その中で、キャリア・パスポートを用いた事例は6つあり、そのうち、4つが特別活動、2つが教科（生活、算数）であった。さらに特別活動の4事例の内訳は、「学級活動（3）」に関するものが2つ、「遠足・集団宿泊的行事が1つ、「学校行事」が1つであった。

これらの多くに共通するのは、過去に児童が自身で記入した資料をファイリングしたキャリア・パスポートを授業の導入場面で見直すことにより自身の成長を実感したり、振り返りの場面でキャリア・パスポートへ記入したりする活動をとおして次への目標を設定するためのきっかけしているということである。いずれも、「振り返り」の機

能を重視していることが分かる。一方、教科でのキャリア・パスポートの活用場面の紹介は少ない。小学校の各教科においても、キャリア教育の視点からその学びが行われているが、表1にあるように、教科での使用は、第2学年の生活と、第3学年の算数の2つのみであった。図1は、同資料にあった小学校第3学年の算数の指導案の抜粋である。授業後半の「4（3）振り返りを書く」の段階で「キャリア・パスポート」（あるいはノート）を活用することを想定した形となっている。「キャリア・パスポート（例示資料）」（文部科学省）では、確かに教科という視点での頁は見当たらないが、例えば第1学年の「がっこうでがんばったこと（がくしゅう）」、第3学年の「こんな自分になりたい（学習）」、第5学年の「になりたい自分にどれだけ近づけたか、ふりかえりましょう（学習面）」等を各教科に関連させていくことは十分に可能だと考えられる。これらの活用場面は、学年の始めや学年末の学級活動での活動で用いることが一般的であると思われる。しかし、教科全般として捉えた場合、年2回程度だけの使用は、児童にとって効果的とは思えない。毎回の教科で書かせるのは現実的ではないが、せめて単元の始めや終わりの場面で活用することで、児童がその教科・単元前後の成長に気づくことができるものになるはずである。

次に、「キャリア教育リーフレットシリーズ 特別編キャリア・パスポート特別編1～5」（国立教育政策研究所、生徒指導・進路指導研究センター、2018・2019）を基に、小学校での活用場面の分析を行った。

まず、「キャリア教育リーフレットシリーズ 特別編 キャリア・パスポート 特別編3 キャリア・パスポートって何だろう？」（p.3）に、秋田県大館市立城西小学校の算数での活用例がある。秋田県では2012年度から県教育庁が「キャリアノート」を作成している。この中で、「低学年では右に示した項目によって、振り返りを児童に示しますが、学年が上がるにつれて子供たち自身の発想で振り返りを行うように促します。日々の授業で

表1 「小学校キャリア教育の手引き」におけるキャリア・パスポートの使用場面例

学年及び教科等	内 容
第2学年 生活科	○単元名「自分の成長を実感しよう」 「キャリア・パスポート」は児童の成長の縮図である。1年生のページを振り返ることで、児童は小さい頃と今だけでなく去年と今でもこんなに成長したということに気付き、3年生への意欲や希望が高まるはずである。また、この学習の成果物を「キャリア・パスポート」にファイリングすることで、更にその先にも学びがつながっていく。
第2学年 特別活動	○遠足・集団宿泊の行事「なかよし遠足」 事後の振り返り： 事前に立てたみんなの目標やなりたい自分の姿にどれだけ近づけたのか、何を学んだのか、この体験を次の学習にどう生かすかなど、振り返る視点をしっかりと児童に示すようにする。最後に、第1回のたんぼば集会から書きためておいたワークシートを見直すことで、振り返りがより具体的なものになり、自己の成長を実感することができる。「キャリア・パスポート」にポートフォリオとしてファイリングすることで、更にその先にも学びがつながる。
第3学年 算数	○単元名「あまりのあるわり算」 「キャリア・パスポート」や児童ノート等を活用して、学びの価値を深める言葉をかける。 「苦しい算数をあきらめないでがんばる」という目標を立てた児童が、図や言葉を使って自分の考えを書きながら、課題解決のために真剣に考えていたら、「やり遂げようがんばっているね。」と言葉をかけたいものである。授業終末の振り返りでノートに「最初は5箱だと思っていたけれど、友達の考えを聞いたら6箱だと分かった。」と書いた児童の姿を見取ったら、「友達の考えのいいところを見付けられるところは、あなたのよさですね。」と言葉をかけたい。児童一人一人への丁寧な言葉かけを通して、児童が学びの価値に気付くことができるようにしたい。
第3学年 特別活動	○《学級活動(3)》なりたい自分になるための目標を意思決定する 題材「〇年生になって」(第3学年)(これまでの力をつなげて、目標を決めよう) 「これまで記録してきた「キャリア・パスポート」を見返しながら友達との対話を通して、自己を見つめて必要な力を見極め、目標を立てて実践することができるようにする。」 〔事前指導〕「キャリア・パスポート」に自己目標の振り返りを記入する。 〔展開〕これまでの「キャリア・パスポート」を基に友達との対話を通して「なりたい自分」に近づくための目標を考えることができるようにする。 〔まとめ〕なりたい自分に近づくための目標や方法を決めて、「キャリア・パスポート」に書く。 「キャリア・パスポート」の活用や友達との対話を通して、次の成長につながる目標が設定できるようにする。
第6学年 特別活動	○《学級活動(3)ア》現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度を形成する 題材「中学生に向けて」 事前に「キャリア・パスポート」を見返し、これまでの自分と向き合うことで自尊感情が高まり、本時の活動がより有意義なものとなる。自分が「できること」「したいこと」「なりたい自分」について、身の周りの人との相互関係を保ちつつ、中学校での自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動する。と同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力を養うことができる。「キャリア・パスポート」を振り返り、自分と向き合う時間を設定する。 小学校生活で書き溜めた「キャリア・パスポート」を一枚一枚めくって見入る児童に教室は温かい雰囲気包まれる。そのようなプロセスを経過することで、将来になりたい自分に向かって今後も前向きに取り組もうとする意欲を高めることができるだろう。
高学年 特別活動	○《学校行事》「キャリア・パスポート」を活用し、学校行事への意欲を高めたり、自己の成長を感じられたりする活動 題材 運動会の目標を立てよう 本実践では、運動会という学校行事の振り返りを「キャリア・パスポート」の一部として扱うこととしている。「キャリア・パスポート」として学年をまたいで振り返りを引継ぎ、過去の自分と向き合って未来の自分を見つめていくことで、1年間の自己の成長が感じられるだけでなく、今後1年間の自己の成長にも思いを馳せることができる。 〔事前指導〕における展開 ・「キャリア・パスポート」を見て振り返る。 〔事後指導〕運動会を振り返ろう ・運動会の振り返りとして「キャリア・パスポート」を書く。

※表中の文章は、キャリア・パスポートを用いた活用事例について書かれた箇所から引用したものである。

培った振り返りの力を、他の様々な活動場面でも発揮するように教師は促していきます。例えば、異学年交流の場面では、上級学年の児童が振り返りを行う様子を下級学年の児童に見せ、自身の今後を見通す機会としても位置付けています。こうして培われた振り返る力を基盤に、「キャリアノート」に記録が蓄積されていきます。」とあり、「キャリアノート」の継続した活用の仕方が紹介されて

いる。ここで着目すべき点も、「振り返り」での活用である。同資料に、「算数の振り返り」として「新しく気付いたこと、自分の考えがかわった理由、友達の考えを聞いて思ったこと、学び合いを通じて感じたこと、次に学びたいこと」の5つの項目が示されている。「キャリアノート」にあるこれらの項目に基づいて児童が書くことを通して、自身の考えを客観的に捉え、低学年から児童

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見た重要なこと (◎) 評価 (☆)
導入	<p>1 問題場面を知る。</p> <div data-bbox="308 369 554 508" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ケーキが23こあります。1箱に4このケーキを入れていきます。全部のケーキを入れるには、箱は、何箱あればよいですか。 </div> <p>式 $23 \div 4 = 5 \cdots 3$ 答え 5箱… 6箱…。</p> <p>2 本時の課題を確認する。</p> <div data-bbox="308 608 651 651" style="background-color: yellow; border: 1px solid black; padding: 2px;"> 答えはどうなるのだろうか。 </div>	<p>○ 問題場面から、包含除であることを確認する。</p> <p>○ 求めるものはケーキを入れる箱の数であることを確認し、余りに着目することで課題解決への見通しをもつことができるようにする。</p>
展開	<p>3 課題を解決する。</p> <p>(1) 自分で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図や半具体物等を使って考える。 ・自分の考えを式や言葉、図で表す。 <p>(2) ペアや全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商が5だから答えは5箱になると思う。 ・5箱だと3こ余ってしまうから、6箱必要になると思う。 	<p>○ 考えの根拠を図や半具体物等を使って考えさせることを通して、筋道立てて考えることができるようにする。</p> <p>◎ 既習を生かして粘り強く考えている姿を見取り、言葉をかけたり、称賛したりする。</p> <p>◎ ペアや全体での話し合いを通して、自他の考えのよさに気付いたり、商と余りの関係についての理解を深めたりできるようにする。</p>
まとめ	<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>(1) まとめる。</p> <div data-bbox="308 1116 554 1170" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 答えは、あまりの分も考えて、商に1をたす。 </div> <p>(2) 適用問題に取り組む。</p> <p>(3) 振り返りを書く。</p>	<p>○ 本時の振り返りをノートに書くことを通して、既習事項を生かして考え、話し合っ解決できたことが実感できるようにする。</p> <p>◎ 本時の学びと今後の生活とのつながりについて問いかけることで、学びを日常生活に生かそうとする意欲を高める。</p> <p>☆ 商に1加える場合について、図や半具体物等を使って考えている。</p>

図1 小学校第3学年 単元名「あまりのあるわり算」の指導案例

(出典：「小学校キャリア教育の手引き」(2022年3月)、p.117より)

のメタ認知的能力の育成がなされていると考えられる。

次に、「キャリア教育リーフレットシリーズ 特別編 キャリア・パスポート 特別編4：キャリア・パスポートで「児童生徒理解」につなぐ」では、世田谷区立尾山台小学校の事例が紹介されている。ここでは、第5学年3学期から第6学年1学期までの学年を越えて運動会や学芸会等の学校行事や学習成果の記録等をファイリングした「キャリアン・パスポート」を活用していた。ちなみに、キャ

リアンは同小学校のキャリア教育のマスコット名のことである。「5年生3学期の目標設定」→「教師との対話」→「6年生1学期の目標設定」→「振り返り」→「2学期の目標設定」というプロセスの中で、学びのつながりや児童の変容を見取ることができます。振り返りや教師のコメントから児童が設定する目標の質が高まっていることも分かります。」とその効果を述べている。この事例は、学級活動として行った内容を5〜6年生まで継続したものである。この報告書からは同小学校が学

年進級した際に担任の変更があったかは読み取れない。しかし、着目すべき点は、学年をまたいで児童の記載内容を継続して見取ることで、児童の目標設定の質を向上させたということである。

5. 「夢の手帖」の特徴

「夢の手帖」は滋賀県教育委員会が作成したキャリア・パスポート「小学生版キャリアノート」の名称である。この「夢の手帖」¹⁾の特徴は、学級活動だけでなく、道徳や総合的な学習の時間、教科の学習の中で活用できるように作成されたものとなっている点である。また、文部科学省の例示資料「キャリア・パスポート」と同じく、同教師用資料として指導案略案が用意されている。

図2に示す資料は、小学校高学年の学級活動「働く理由について考えよう」のワークシートの抜粋

はたらき 働く理由について かんがえよう		組	番	月	日
めあて		名			
はたらき 働く理由についてあてはまるものに○をつけよう		前			
		思う	思わない	わからない	その理由
1	お金がたくさんもらえる仕事に就きたい。				
2	人の役にたつ仕事がしたい。				
3	休みの日が多い仕事がしたい。				
4	みんなに認められる仕事に就きたい。				
5	自分にとって好きなことができる仕事に就きたい。				
みんなの意見を聞いて、一番大切に思う理由は何かな？					
ばいこ 番号	理由				
ふりかえり					

図2 「小学生版キャリアノート「夢の手帖」」の高学年用ワークシート「働く理由について考えよう」

(出典：滋賀県教育委員会ホームページより)

活用ワークシート	
ねらい 自分の将来について考えるきっかけとして、なぜ働くのかを友だちと考え合う。	
小学校高学年 Ⅲ 未来を語ろう	
学級活動「働く理由について考えよう」	
めあて 何のために働くのかについて考える。	
課題発見・解決のプロセス	主な活動内容
課題を見つける	①自分の身近な人たちは、なぜ働くのかを考える。
見通しをもつ	②身近な人の働く理由を参考にして自分の将来のことを考える。
自分で考える	③働く理由について自分で考えたことをシートにまとめる。
共に学び合う	④考えをグループや学級で交流する。
学習をまとめる	⑤話し合いを参考に自分の考えをまとめる。
学習を振り返る	⑥学習したことを振り返る。
新たな課題を見つける	⑦自分がやってみたい仕事や働くときに大切にしたいことについて調べる。
留意事項・児童の予想される反応	
<ul style="list-style-type: none"> 生活のため以外の理由があることも気づかせる。身近な人たちのほかに、いろいろな理由で働く人について考えさせる。 ※インタビュー等で実際に聞き取らせること。 仕事の内容や賃金、労働時間などの条件も理由に関係することに気付かせる。 自分が働くとしたらどんな理由かということも考えさせる。 ワークシートの各項目であてはまることを選び、理由を書かせる。 働く理由についてグループで話し合い、いろいろな理由から人は働くことを理解させる。 お金のことや生きがいなどいろいろな考えが出るようにする。 ワークシートの考えの中から自分が一番大切に思うものを選び、理由を書かせる。 身近にいる人やこれまで関わりを持った人の仕事に対する思いも考えさせる。 ワークシートに学習の振り返りを書かせる。 	
<p>キャリア教育の視点 生活・仕事上の多様な役割や意義を理解する。</p> <p>生活や社会とのつながり 社会生活や仕事にはいろいろな役割があることやその大切さに気付かせる。</p>	
<p>ふりかえり (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人によって働く理由はいろいろであることがわかった。 ・これからたくさん人の意見聞き、働くことについて考えていきたい。 	
教科等との関連 学級「食料生産と労働の社会的行事」 道徳「勤労・働くことの意義」 総合「人生の先輩に学ぶ～自己の生き方～」 社会「食料生産に従事している人々の工夫や努力」「工業生産に従事している人々の工夫や努力」	

図3 「夢の手帖」高学年用の教師用指導資料にある指導案「働く理由について考えよう」の一部

(出典：滋賀県教育委員会ホームページより)

である。このシートの下部に「ふりかえり」の欄がある。次に、図3に示す資料は、図2のワークシートを用いた授業を行う際の教師用指導資料の抜粋である。この活動はキャリア教育に関する学級活動の1つである。しかし、図3の右下の「教科等との関連」という欄に着目すると、「学活、道徳、総合、社会」の4つが書かれている。この欄には、4科目で関係する学習内容が書かれている。道徳には「勤労・働くことの意義」、総合には「人生の先輩に学ぶ～自己の生き方～」、社会には「食料生産に従事している人々の工夫や努力」「工業生産に従事している人々の工夫や努力」とある。

このように、教師用資料に学級活動の内容と関連する教科等の内容を示すことで、小学校の教員は、学級活動で図2のワークシートの「ふりかえ

り」欄を活用するだけでなく、この授業に関係する教科等で横断的に活用することができる。このような取り組みができると、児童の「ふりかえり」に内容は、学級活動だけでなく、教科等で学びとった知識や経験を基に、多方面から考察した深みのあるものになると思われる。

6. 考察

多くの教育委員会はホームページ上でそれぞれ独自のキャリア・パスポートを作成、配信している。これらの多くは、文部科学省が例示したキャリア・パスポートをそれぞれの自治体の特色に合わせて加筆・修正したものである。その結果、同資料を活用する場面は、学年はじめや終わりの学級活動、運動会や宿泊活動等の学校行事の事前事後の学級活動といった限定されたものになっている。

文部科学省が例示したキャリア・パスポートは「これはあくまでも学級活動・ホームルーム活動の内容項目 (3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」で想定される大まかな活動の流れを例示したもの」(「キャリア・パスポート」の様式例と指導上の留意事項より)とあり、この資料は学級活動での使用を想定したものである。一方、同資料に「各教科等と往還し」とあることから、教科との横断的な活用が求められている。

児童のキャリア意識は、ある年度内に行われる特別活動だけでなく、各教科の授業内や日常の場面で連続的・継続的に発達するものである。よって、理想的な姿は、児童が毎日日記のように同資料に記入し、教員がそれに寄り添ったコメントを書くことである。しかし、その状況は双方の多忙化を助長するものであり好ましいものではない。例えば、せめて各教科の単元の終了時の振り返りの場面で、自分が新しく知り得た事実を記入する場面を設けるだけで、児童は自身の成長に気づいたり、大人になったときの姿を展望したりすることができるのではないだろうか。その意味で、児童のキャリア形成の機能をさらに発達させるような、学級活動と教科を往還して使用できるキャリ

ア・パスポートの開発が必要であるとする。文部科学省が例示したキャリア・パスポートは先述のように、年度初め、学期や年度の終了時の学級活動で各学校段階の教員がそれぞれ作成し児童・生徒用の振り返りシート等を一本化したものともいえる。そう考えると、各教科の授業終了時もしくは単元の終了時の振り返りの場面で児童・生徒にノートに書かせているものを、形を変えて記録し、ポートフォリオ形式で集積すれば、各教科でのキャリア・パスポートとしても機能するのではないだろうか。滋賀県教育委員会による「夢の手帳」における学級活動と教科等での活用の例示はその解決策の1つとなると考えられる。教師の多忙化が問題となっている現在、このような視点を変えた形で運用可能な方法の検討が必要だと考える。

このように、今後、キャリア・パスポートを学級活動や学校行事を含む特別活動の枠内だけでなく、教科横断的に扱うための工夫が必要である。その際、キャリア・パスポートにある「振り返り」の機能を教科横断的に活用することが有効だと考えられる。

7. おわりに

本研究では、キャリア教育の推進のために文部科学省が例示したキャリア・パスポートのその後の特別活動および教科を関連させた活用の在り方について、「小学校キャリア教育の手引き」(文部科学省、2022)と、「キャリア教育リーフレットシリーズ特別編キャリア・パスポート特別編1～5」(国立教育政策研究所、生徒指導・進路指導研究センター、2018・2019)、及び滋賀県教育委員会による「夢の手帳」を基に検討した。その結果、文部科学省が例示したように、キャリア・パスポートを導入した場面の多くは、特別活動で新たに盛り込まれた「学級活動 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」の活動場面や、学校行事等を含む学級活動であった。児童がある活動の事前事後において「書くこと」や「過去に書いたものを見返すこと」で、自身の変化や成長に気づき、

児童自身のキャリア形成につながるようになっていく。

一方、学級活動以外の場面である教科での活用の事例は僅かであった。キャリア教育は特別活動を中心として各教科の特質に応じて行っていくものである。今回明らかになった「キャリア・パスポート」の効果を教科に転用することを想定すると、「キャリア・パスポート」を教科の振り返り等の場面で導入するが可能である。今後、小学校現場での教科の振り返りの場面とキャリア教育を見据えた在り方の具体策をさらに模索したい。

註

- 1) 滋賀県教育委員会による「小学生版キャリアノート「夢の手帖」」は、以下のホームページに掲載されたものを活用した。
<https://www.shiga-ec.ed.jp/www/contents/1501675580366/index.html> (2024 年 12 月取得)

引用文献

- 国立教育政策研究所、生徒指導・進路指導研究センター (2018・2019)、「キャリア教育リーフレットシリーズ 特別編キャリア・パスポート特別編 1～5」。
https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/30career_shiryoushu/index.html (2024 年 12 月取得)
- 宮城県教育委員会 (2023)、「志シート」。
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/1293/shouchuusetto.pdf> (2024 年 12 月取得)
- 文部科学省 (2011)、「中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」」。
https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11402417/www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf (2024 年 12 月取得)
- 文部科学省 (2016)、「中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」(中教審第 197 号)」。
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf

(2024 年 12 月取得)

- 文部科学省 (2018)、『小学校学習指導要領』(平成 29 年告示)、東洋館出版社。
- 文部科学省 (2019)「「キャリア・パスポート」例示資料等について(事務連絡)」。
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/08/21/1419890_001.pdf (2024 年 12 月取得)
- 文部科学省 (2019)、「「キャリア・パスポート」の様式例と指導上の留意事項」。
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/08/21/1419890_002.pdf (2024 年 12 月取得)
- 文部科学省 (2022)、「小学校キャリア教育の手引き」。
https://www.mext.go.jp/content/20221020-mxt_jidou01-000024019_01.pdf (2024 年 12 月取得)
- 佐野匡、藤井芳子 (2024)、「キャリア・パスポートを意識した学級活動(3)の指導に関する一考察—東京都内小学校での取組を例に—」、『帝京大学教職センター年報 (11)』、103-113。
- 橋本祥夫 (2022)、「キャリア・パスポートを中核にした小学校・中学校・高等学校の連携によるキャリア教育の意義と課題」、『京都文教大学 こども教育学部研究紀要(臨時)』、25-37。
- 松山康成 (2022)、「小学校・中学校・高等学校におけるキャリア・パスポート活用の実際と進路指導・キャリア教育との関連」、『学習開発学研究 14』、33-42。
- 藤本仁 (2021)、「小学校特別活動におけるキャリア教育の重要性：キャリア・パスポートの活用」、『青山学院大学教職研究 (7)』、207-231。

